

連載

## ホームページで情報発信

M  
H  
O  
M  
E  
P  
A  
G  
E



### フォームについての補足

96年11月号のフォームについての回で、フォームに入力された内容をメールで送ってもらう方法について解説しました。その後、読者の方からうまく動作しないというメールをいただきました。

そこで調べてみたところ、インターネットエクスプローラの2.1および3.0では、FORMのACTIONオプションでmailtoを指定しても、記入されたフォームの内容がメールで送られるのではなく、メールソフトウェアがメールを入力するためのウィンドウを開くということが分かりました。

したがって、インターネットエクスプローラでアクセスしているユーザーには、フォームを記入してもらっても、その内容を自動的にメールにして送ってもらうことができません。インターネットエクスプローラのユーザーからの返事をフォームでもらう場合には、CGIを使う以外にないようです。ACTIONオプションでmailtoを使ったフォームを使用する場合には、ネットスケープナビゲーターを使ってくださいという注意書きが必要になるでしょう。

### METAタグ

METAタグは、ページ上には表現されませんが、サーバーソフトウェアが利用できるような情報を格納するタグです。どのように役に立つかというと、たとえば、AltaVista (<http://www.altavista.digital.com/>)などのいくつかのサーチエンジンはMETAタグの内容も参照して検索をするようになっています。

また、自分用のメモや、共同でページを作成しているときなどに、更新者や日付を記入

川添 歩 (かわぞえあゆむ)  
アクセス株式会社 <http://www.axes.co.jp/>

# 最終回 ホームページ作成のまとめ

今回は、今までの連載の中でこぼしていた内容について、補足をしたいと思います。

主に、各回のテーマには合わなかったため掲載できなかった種類のタグと、ネットスケープナビゲーター3.0になって新しく追加されたタグについて紹介します。また、最後にホームページを作るうえで気をつけたい事柄をまとめてみました。

しておきたい場合がありますが、これらの情報をコメントとして入力するのではなく、METAタグで記述しておいたほうが、スマートな方法と言えるでしょう。HTML ファイルは、われわれ人間にとっては見るための手段ですが、サーチエンジンをはじめとするプログラムにとっては「データ」そのものであり、METAタグを使用することでプログラムがHTML内の情報を扱いやすくする利点があるのです。

METAタグは  
`<META NAME="種類名" CONTENT="内容">`  
 のように書き、通常<HEAD> ~ </HEAD>の中に記述します。

NAMEで指定する種類の名前は、残念ながら、どのように入力しておくかという標準が今のところ決まっていません。しかし、よく使われているものとしては、下記のようなものがあります。

- Title: タイトル
- Author: ページの内容の作者
- Publisher: ページの発表者。個人ページであればAuthorと同じになる場合が多い
- OtherAgent: 編集や翻訳などに関わった人や会社の名前
- Date: 発表の日付
- ObjectType: このページの種類。novel、poem、dictionaryなど
- Identifier: ページの管理用のID。コードや番号など
- Relation: 他のページとの関連
- Source: オリジナル情報の所在。ほかのページや、紙での原稿など
- Language: 使用言語
- Coverage: ページの内容がカバーする地域や時代など

たとえばアップルコンピュータ (<http://www.apple.co.jp/>) では、アップルが作成して発表するWWWに使うMETAタグを、これらを拡張した形で決めて使用していますので、参考に見てみてください。

**METAタグで自動ページめくり**  
 METAタグの別のオプションを使って、面白いことができるので紹介しましょう。

あるページを表示してから、設定秒数後に、自動的にほかのページに飛び指定です。

`<META HTTP-EQUIV="Refresh" CONTENT="[秒数]; URL=[URL]>`  
 のように書きます。たとえば、ページを表示してから3秒後にほかのページに飛ばしたければ、  
`<META HTTP-EQUIV="Refresh" CONTENT="3; URL=http://www.axes.co.jp/">`  
 のように書きます。

これは、あるホームページが別のサーバーに移動したような場合に便利です。

元のホームページの位置に図1のようなページを置いておけば、移動のお知らせを見せたあと、自動的に新しいアドレスのページに行って表示してくれます。



図1: 自動めくりのサイト(上)とそのHTML(右)

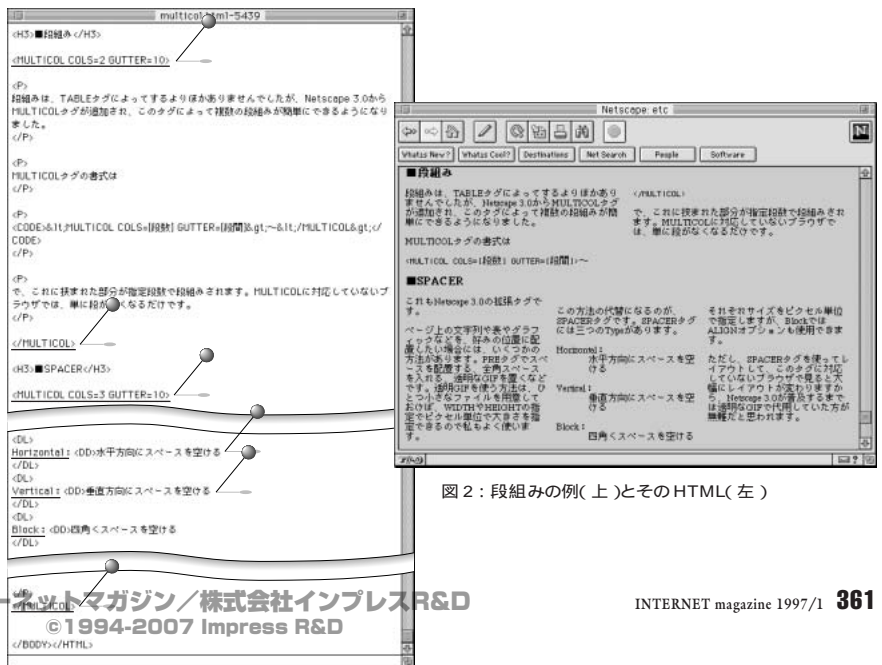


図2: 段落組みの例(上)とそのHTML(左)



## SPACER

これもネットスケープナビゲーター3.0の拡張タグです。

ページ上の文字列や表やグラフィックなどを、好みの位置に配置したい場合には、いくつかの方法があります。PREタグでスペースを配置する、全角スペースを入れる、透明なGIFを置くなどです。透明GIFを使う方法は、1つ小さなファイルを用意しておけば、WIDTHやHEIGHTの指定でピクセル単位で大きさを指定できるので私もよく使います。

この方法の代わりになるのが、SPACERタグです。SPACERタグには3つのTypeがあります。

Horizontal：水平方向にスペースを空ける

Vertical：垂直方向にスペースを空ける

Block：四角くスペースを空ける

それぞれサイズをピクセル単位で指定しますが、BlockではALIGNオプションも使用でき

ます。

ただし、SPACERタグを使ってレイアウトして、このタグに対応していないブラウザで見ると大幅にレイアウトが変わりますから、ネットスケープナビゲーター3.0が普及するまでは透明なGIFで代用していたほうが無難だと思われま (図3)

## 表の背景色

ネットスケープナビゲーター3.0と、インターネットエクスプローラで使用できる、TABLE関連のタグのオプションです。TABLEで作成したセルの背景色を指定することができます。これによって表全体や、表の見出し部分、あるいは特定のセルを目立たせて見やすくなるすることができます。

書式は、<TABLE>、<TR>、あるいは<TD>タグに、ページの背景色指定と同様のBGCOLORオプションをつけるだけです (図4)

デザインすること.....

ホームページをデザインすることとは、単に美しいグラフィックスを作るものではありません。ホームページというメディアは、紙のメディアや、テレビ、ビデオのようなメディアとはかなり異なっていることを認識する必要があります。

第一に、ホームページは順番に読まれるものではありません。リンクの仕方によってページをたどっていく順番はさまざまに変化します。

第二に、ページそれ自身にユーザーインターフェイスを備えることができます。ページ中のテキストやグラフィックスを押すことでほかのページに飛ぶリンクを作ることができるために、このメディアの見方をメディア自身が提供することになります。

これらのことからページをデザインするのは、ひとつにはあるグループを作るページ群の構成を考えることであり、またその構成をどのようなインターフェイスで見せるかを考えることになります。

ページ群の構成やインターフェイスは、グラフィックデザインよりも優先して考えるべき内容です。グラフィックデザインは、構成やインターフェイスの違いによって決定される部分があるからです。たとえば、次のページを見るボタンのグラフィックスのデザインは、そのボタンが必要かどうか分らなければ、考える意味がありません。そして、全体の構成やインターフェイスは、そのページ群に収める内容が決定するものなのです。

ホームページを作るという、どうしても、どんな画像を使おうとか、どんなグラフィックデザインにしようとか、そういったところからまず目がいきがちですが、それをぐっとこらえて、まずどのような内容を収めるのかをじっくりと考えてください。そして、それをどのような構成に入れるか、その構成をどのように見てもらうかを考えたうえで、グラフィックを考えましょう。

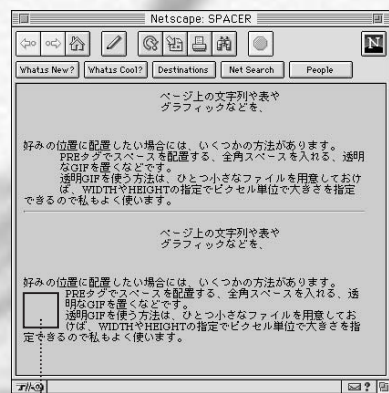


図3：スペースを空けるために透明GIFを使用した例(上)とそのHTML(右)

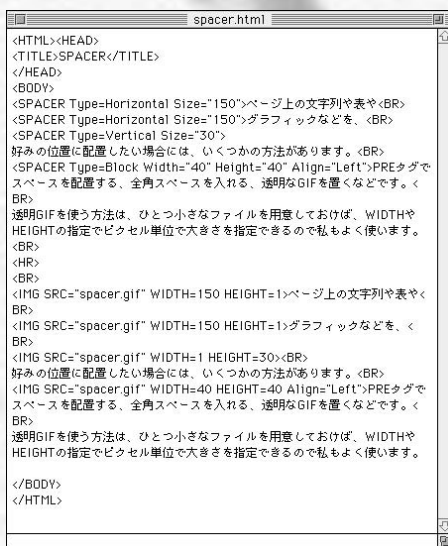
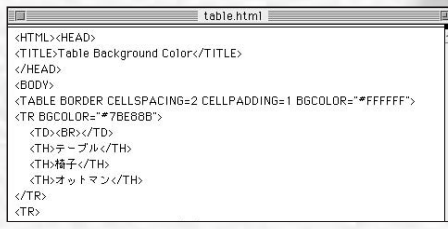
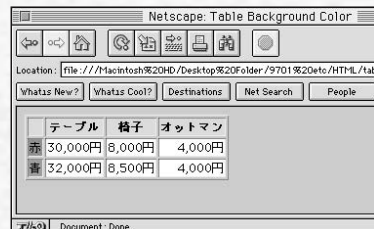


図4：テーブルを用いた例(下)とそのHTML(右)



## 見る人のことを考える.....

ホームページは、誰かに見ってもらうために作るものです。見てもらいたいと考えるのであれば、見てくれる人のことを考えて作らなければなりません。当たり前のことですが、お金をかけて作っている企業のホームページさえ、それを考えているとは思えないページに出くわすことがあります。

見る人のことを考えるということは、見やすさ、使いやすさを考えるということです。

見せたいと思う情報に、見る人が容易にたどりつけるかどうかをいつも考えてください。

初めてそのページに来た人が、どんな情報がどこに行けばあるのか、すぐに分かるような構成やデザインを心がけてください。また、自分が何の情報を見ていて、どうすれば元に戻れるのかもちゃんと提示されていなければなりません。適切なナビゲーションボタンを配置していないと、ブラウザのBackボタンで戻りしか方法のない「行き止まり」を作ってしまう、見せたいほかの情報にたどりつけなくしてしまうかもしれません。

ページの構成だけでなく、目次の文を考える際にも心がけるべきです。たとえば「アンケート」と書かれたボタンがあっても、それが何のアンケートなのか、入力用のページなのか、結果発表のページなのか、何も分かりません。「あなたの使用パソコンは？ アンケート実施中！」といったボタンのほうがより分かりやすくなります。

ホームページは、現在の通信状況がまだあまりよくないせいもあって、見る側、ユーザーにずいぶん負担をかけるメディアです。紙のメディアならば、ばらばらめくることができですが、ホームページではそれができませんから、「めく」前に内容がきちんと分かるようにしてあげるべきなのです。

ですから、必要な情報をきちんと提示すると同時に、不必要な情報をなるべく少なくする工夫も必要です。

C  
O  
L  
U  
M  
Nホームページ制作で  
気をつけたいこと

たとえば、意味のない大きな画像を使うことは、肝心な情報にたどりつく前見る人の気持ちなえさせ、情報に到達しにくくします。

あるいは、工事中のページ。目次をクリックして開いたページに、「工事中」のグラフィックがあるだけといった無意味なリンクは避けます。工事中の項目は、目次からはずしておくのがいいでしょう。どうしても今後の予定として見せたいのであれば、リンクしていない目次項目として載せておくべきです。

また、多くの人が忌避感を表明しているにもかかわらず、依然として使われることの多いのが文字の点滅（BLINK）。文字の点滅は、目立ちすぎるという意味で、やはり必要な情報です。気になりすぎて、ほかの情報に目が行きません。また、目立つはずの文字列も、点滅しているがゆえに非常に読みにくくなってしまいます。

## 情報を公開する責任.....

非常に簡単に、大勢の人へ向けた情報を個人レベルで公開できる初めてのメディアがホームページです。それだけに、個々の人は情報を公開するということに慣れていません。しかし、これから私たちはそれに慣れて、じっくり考える機会をいつも持っていないといけないと思います。それは、気がつかぬうちに人を傷つけたり、罪を犯したりすることを避けるだけの知識を持つということであり、その結果として、私たち自身の首を絞めるような規制を許さないようにするという点でもあります。

これまでは、出版や放送のプロだけが、プライバシーや著作権について知識を持っていれば、とりあえずそれらの権利を守ることができました。今後は、そうではありません。ふだん、私たちが近所の人に迷惑をかけないように、ましてや乱暴をはたらいたりしないように生活しているのと同様に、デジタルの網の中の近所の人、すなわち世界中の他人のことを考えて、ともに生活していかなければなりません。

自分の発信する情報には自分で責任をもち、ほかの人の権利は犯さない。これはHTMLのタグを覚えることよりも、ずっと重要なことなのです。

## 終わりに・・・

ちょうど12回、1年間書かせていただいた本連載は、今回で終了させていただきます。私は毎日仕事でホームページの企画や制作をしており（ご用命はメールでどうぞ！）、プロが介在すべき必要性を感じていますが、その一方で、アマチュアが自由と同じ土俵で情報発信できる面白さや楽しさも同時に享受しています。こんな素敵なメディアが生まれた時代に生きていることを、本当にうれしく思います。

私の記事が、どのぐらいの方にホームページを作るきっかけやヒントを与えることができたか分かりませんが、より多くの方がオリジナリティあふれたページを作成されることを願ってやみません。

（株）アクセスではスタッフを募集しています。詳細はホームページ（<http://www.axes.co.jp>）をご覧ください。



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)